

Forest 通信 H30 9

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター NO.355



高尾山の生きものたち

サシバ (タカ科)

目の前をタカの仲間がさっそうと飛んだ。精悍でカッコいいと思った。高尾の尾根で見たサシバだ。

サシバは、全長が50cm程の大きな鳥で、頭部から身体上面と胸が茶褐色で、腹は白く褐色の横斑がある。渡り鳥で、4月頃に東南アジアなどから渡来し、日本で子作りをし、9月頃に親も子も南方に渡っていく。高尾付近でも飛び姿が見られる。食べ物は、カエルやヘビ、昆虫などで、これら動物が多い水田や沼、林、草地のある里山などの環境で子育てをする。たくさんの子供が育ち、渡っていけるかは、このような生き物の豊かな環境の多さに左右される。これからも豊かな自然環境が残り、サシバがたくさん渡っていけるといいと思う。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



富ちゃん 皿ちゃんの



NO.36

アオツツラフジ・ツツラフジ (ツツラフジ科)

高尾山で普通にみられるのはアオツツラフジで、林道沿いや森林の中で木に巻き付いたり地上を這ったりしている。一本見つけてたぐり寄せるとどこまでも伸びていたりする。秋になると青く熟した液果がたくさん実る。指でつぶすと中から固いタネが現れる。このタネの形がアンモナイトに似ている。面白いのでたくさん集めたりしていると、人によっては虫みたいで嫌だと騒ぎ出すこともある。誰でも面白いようではないようだ。

同じようにツツラフジも黒く熟した実をつぶすと、こちらはホタテ貝のように見える。高尾山ではツツラフジはめったに見つからない。台風でツルが林道に落ちていたり、実が落ちていることもあるが希だ。

どうしてこんな形をしているのか謎だが、両方のタネを比べてみると面白い。自然界の奥深さともいえるべきなのかもしれない。この実は有毒なので注意が必要。(富)



アオツツラフジ



本物のアンモナイト



アオツツラフジのタネ (アンモナイト)



ツツラフジのタネ (ホタテ貝)

「山の日」制定記念イベント開催

平成28年8月11日から始まった「山の日」です。今年で3回目を迎え、今年も当センターでは、「山の日」を制定した記念イベントを一般の方を対象に高尾山エリアで実施しました。(田)

まるごと！高尾山GREEN CLEAN作戦 (8月11日開催)

高尾山は、「ゴミ持ち帰り運動」発祥の地です。年間の登山者数は国内外から300万人を超えています。しかし、ゴミはゼロではありません。

今年も「山の日」制定記念イベントとして、「まるごと！高尾山 GREEN CLEAN 作戦」を森林インストラクター東京会と連携して、高尾の自然を親しみながらボランティアで登山道のゴミを拾う eco ハイキングを実施しました。

参加者総勢107名が4班に分かれ、登山道4コース(①琵琶滝コース、②稲荷山コース、③蛇滝～3号路コース、④日影いろはの森コース)から一斉にスタートし、山頂には予定どおり全員無事に到着し、昼食後に全員で記念写真を撮影しました。

国有林からは、東京事務所と当センターの職員10名が参加し、山の日PR用の「半被」を羽織り、「のぼり旗」を持って「山の日」のPRを行いました。山頂に着くと山の日「のぼり旗」と一緒に記念撮影する人が集まって行列が出来ていました。人気があることにビックリしました。

4つのコースとも、「ゴミの持ち帰り運動」が浸透し、燃えるゴミ20ℓ3袋、ペットボトル45ℓ1袋、瓶・缶は少々となり、毎年ゴミの量は減っています。

一人の脱落者、けが人もなく当センター前に予定どおり到着したところに大雨と雷でした。閉会式を展示室で行いました。



GREEN CLEAN 作戦
参加者記念撮影(高尾山頂)

期間限定・クラフト体験！ (8月6日～12日開催)

「夏休み特別企画クラフト体験教室」を開催しました。期間限定で小学生以下の児童を対象として日替わりで作るクラフト作品を林野庁・局・センターのHP等で紹介し、親子合わせて322名の参加がありました。隣接する高尾599ミュージアムで開催している「TAKAO599祭」の来場効果もあり、連日家族連れで満員御礼の好評でした。夏休み満喫中の子どもたちは、楽しそうにそれぞれ工夫して自分だけの作品を作り上げていました。



クラフト体験中(クラフト体験室)

魚取りと植物・生物観察教室Ⅰ、Ⅱ (8月11日、12日開催)

裏高尾の日影沢キャンプ場と周辺の川・森林において、NPO法人「森とでんえん倶楽部」と連携して、「夏休み高尾山自然体験教室」を実施しました。8月11日は53名、12日は52名が参加し、お父さんお母さん、家族の皆さんと一緒に高尾山の素晴らしい環境の中で、高尾山の植物観察、生き物探し、昆虫観察、草笛体験、小川での魚取り、川遊び、スイカ割り、ドングリで作ったカブト虫・クワガタの相撲大会を行いました。

参加した子どもたちは、森林インストラクターと一緒に森林散策や川遊びなどの色々な体験を楽しみ、森林のことを学習しました。

「TAKAO599祭 山の学校」 (8月11日～13日開催)

「高尾山で まなぶ あそび つくる」をテーマに高尾599ミュージアム主催により、トークショー、ネイチャーレッスン、音楽LIVE、ヨガミニレッスン等を日替わりで出演者・内容を変えて行われました。



ゲンノショウコ

森林教室

川越市 子どもエコクラブ

台風 20 号の影響が心配された 8 月 24 日(金)に、川越市こどもエコクラブのメンバー 10 名とサポーター 1 名、川越市環境政策課の職員 3 名が森林ふれあい館を訪れました。当日は、時折小雨がぱらつく程度で、予定どおりに森林教室を実施することができました。今回の森林教室は、川越市こどもエコクラブの研修の一環として実施されたもので、メンバーは日頃から地域での環境活動に取り組んでいるとあって、森林学習ではみんながメモをとり、丸太切りでは上手にのこを使い何回も輪切りに挑戦し、森林観察では、ザトウムシを見つけて大はしゃぎしたり、いろいろな葉っぱの匂いをかいだり触ったりしながら短い時間ではありましたが真面目に取り組んでくれました。

今回、森林教室に参加したメンバーは、小学 3 年生から中学 2 年生までの生徒達で学年が区々ということもあって、どの程度理解してくれたのか、どの程度満足してくれたのか心配でしたが、閉会式で「今日は、森林学習で森林・林業について学び、木を切ったり、森林散策でいろいろな事を教えてもらい、普段

できない体験をすることができて楽しかった。今後の活動に生かしていきたい。」との感想を聞きひと安心した今回の森林教室となりました。(谷)



森林の働きについて学習



熱心に森林観察

森林教室

三鷹市 親子森林教室

8 月 17 日(金)、三鷹市が主催する親子森林教室参加の皆さん、親子 7 組 21 名と引率職員 2 名がセンターを訪れ木工クラフトと丸太切りを体験しました。

最初に、木の実や枝を使った木工にチャレンジしました。いろいろな材料があり、選択にも迷ったようですが、各自お気に入りの作品ができあがったようです。

次は、いざ丸太切りへ。鋸を使ったことのない子どもさんもありましたが、切っているうちにコツをつかみ、補助なしでも上手に切れるようになりました。時間に余裕もあったので、2 枚、3 枚と切ってもらいました。切った後は皮を剥いてつるつるの表面を触ったり、薄く切った輪切りを太陽にかざして年輪を透かして見たりと、切った後も楽しんでいただけようです。

終了後に子どもさん一人一人から、「クラフトが楽しかった」、「もっと丸太切りしたい」等の感想をいただきました。(高)



クラフトの材料を選択中



上手に切っています

林業体験

拓殖大学「環境政策ゼミ」

8月7日(火)に拓殖大学「環境政策ゼミ」の学生12名と教授1名が森林ふれあい館へやってきました。午前中のプログラムは国有林、林業に関するレクチャーを実施しました。就職活動中の学生も多いことから、レクチャー終了後には「国家公務員」や「林業に関わる職業」への質問等に熱が入っていました。

午後は、台風接近による雨模様のため間伐体験が森林観察へ変更となり、傘を差しての観察となりました。植物や昆虫、動物の痕跡などを見ていくうちに少年少女時代が蘇ったのか、喚声を上げてはしゃぐ姿も見受けられました。

終了後、学生たちからは「森林林業について想像していたより魅力的に感じられた」「またここに戻ってきて林業を体験したい」といった意見も多く、今回の体験は将来への重要なステップになったのではないのでしょうか。(磯)



国有林・林業に関するレクチャー



傘を差しての森林観察

職場体験

江東区立 深川第二中学校

江東区立 深川第八中学校

残暑の中、8月29日に深川第二中学校2名、8月30日に深川第八中学校2名の生徒が職場体験にやってきました。深川第二中学校は下刈作業と間伐作業を体験し、深川第八中学校は下刈作業、炭焼施設の整備と森林観察方法を体験しました。下刈作業では、両校とも高いパフォーマンスを発揮してくれましたが、間伐作業は想像以上にきつかったらしく「とても疲れた」との感想でした。炭焼施設の整備では、薪を運んで積み上げる作業を行い、汗まみれになりながらも積み上げを完成させました。森林観察では小学生向けの森林散策ルートを実際に歩き、森林や植物の説明ポイント等について学びました。

肉体的には厳しい内容のプログラムでしたが、今回の体験が将来の進路を決める際の一助になればと感じました。(磯)



下刈前に鎌研ぎ(深川第二中)



たくさんの薪を運搬(深川第八中)

編集後記

「おじさん、この草なあに？」森林散策で子どもたちに尋ねられるが答えられない。前もって調べ覚えつつもりなのだが答えられない。覚えた「つもり」ではなく、しっかりと脳内にインプットしなければいけませんね。花の形だけでなく、葉の付き方や手触りなどいろいろ覚えなさいといけません。植物って奥が深いです。

Forest 通信 NO.355

発行__林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター



ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
林野庁関東森林管理局高尾森林ふれあい推進センター
〒193-0844 東京都八王子市高尾町 2438-1
TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>